



挨拶プラス一言運動

教師が子どもと望ましい人間関係を築く上で、日々の挨拶は極めて重要です。子どもと廊下などですれ違う際、教師の姿勢には大きく次の三つのパターンがあるようです。

一つは、子どもが挨拶するまで待つパターン。子どもは、教師に先んじて挨拶すべし、という意識がありやなしや……。

二つは、子どもの姿を見かけるや否や、率先して「おはよう」などの挨拶言葉を発するパターン。

三つは、挨拶言葉に一言添えるパターン。

「おはよう。具合はどうか？」

「さようなら。今日は本当に助かった。また、よろしくお願いしますね。」等々。



担任する学級や所属学年によらず、全ての教師が率先して子どもに挨拶する。その際、子どもを思いやったり、感謝の意を伝えたり、認め励ましたりする言葉がけを工夫する。まさに率先垂範、師弟同行です。

挨拶の「挨」には、「心を開く」という意味があります。「拶」は、「近付く」という意味をもっています。**挨拶は、自分の心を開いて相手に近付く行為**です。

ともすると、私たちは子どもから挨拶を待って挨拶言葉を返しがちです。挨拶に一言添えることは、**人間関係づくりの手本を教師自ら示す**ことになります。挨拶プラス一言が、子どもに元気や勇気、生きる希望を与えることがあるのです。

挨拶プラス一言運動の輪が、市内全ての学校に広がることを願ってやみません。

自分は創り出すもの

精神医学者／トマス・サズ

よく、あの人はまだ自分探しを終わっていない、などと言う人がいるが、そもそも自分とは探すものではない。自ら創り出すものである。

出典：「賢人たちに学ぶ 道をひらく言葉」本田季伸著（かんき出版）

※ 誰も、自分は唯一無二の存在。いくら探してもどこにも潜んでいません。